

インドのエネルギー問題を カネに換えた男

ーゴータム・アダニーー

久保研介

●電力需要とともに伸びるインドの石炭輸入

インドでは急速な経済成長とともに電力需要が伸び続けている。図1が示すとおり、電力の必要量に対して供給が一〇%程度不足する状態が続いており、発電能力の向上が需要課題となっている。

図2はインドの発電能力（自家発電分を除く）をエネルギー源別・所有主体別に表したものだ。ここから発電能力の半分強が石炭で満たされていることがわかる。二〇一〇年度にはインド全体で六億九三七〇万トンの石炭が消費されたが、その七割以上は発電に用いられたと推定される。

インドの推定石炭埋蔵量は褐炭も含めると三二六七億六〇〇万トン（二〇一一年四月時点）であり、年間使用量の四七一倍に達する（参考文献②）。しかし近年は石炭輸入が増えており、インドは中国・日本・韓国に次ぐ世界第四位の石炭輸入国となっている（参

考文献①）。図3が示すように一九九〇年代末までは輸入の大半が鉄鋼生産に使う原料炭（コークス用石炭）であった。これはインド産の石炭が水分や灰分を多く含み、コークス生産に適さないためである。しかし近年は発電所の燃料に使われる一般炭の輸入も急速に増えている。この背景には国内生産の停滞がある。石炭採掘にもなう環境破壊に対する意識の高まり等が新規炭鉱開発を阻んでいるのだ。また、石炭生産がインド

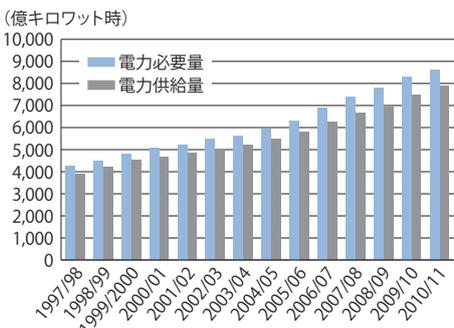
石炭公社（Coal India Limited）をはじめとした公有企業に支配されておき、それらの経営が非効率的であることも理由として挙げられる（参考文献③）。生産の停滞を受けて政府は一九九三年に一般炭の輸入を自由化し、関税率を段階的に引き下げた。

こうして急速に伸びはじめた石炭輸入ビジネスにうまく食い込んだのが、ゴータム・アダニー率いるアダニグループである。同グループ

の商社部門であるアダニ・エンタープライズはインドが輸入する一般炭の約半分を扱っている（参考文献④）。同社のデータによると、二〇〇五年には三九四万トンに過ぎなかった同社の石炭輸入量は二〇一一年には三一四八万トンに膨らんでいる（参考文献①）。

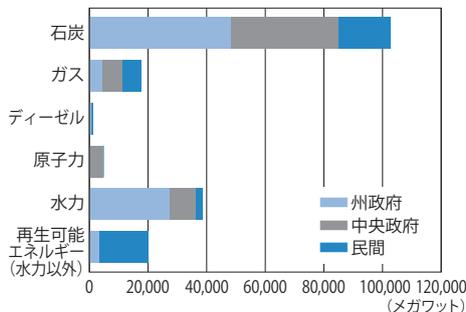
港湾インフラ会社であるアダニ・ポート・アンド・スペシヤルエコノミックゾーンおよび電力企業のアダニ・パワーと合わせると、二

図1 インドの電力需給状況



（出所） Central Electricity Authority, Annual Report 2009-10; Central Electricity Authority, Load Generation Balance Report 2011-12.

図2 エネルギー源・所有主体別の発電能力 (2011年11月30日時点)



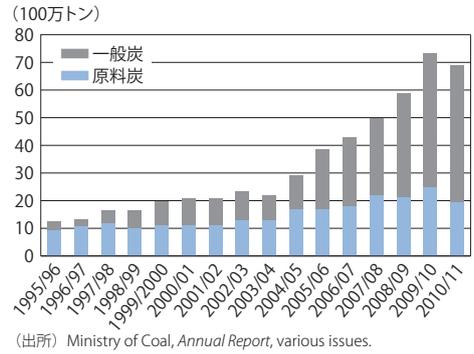
（出所） Ministry of Power, Annual Report 2011-12.

●港湾を巧みに利用した貿易ビジネス

〇一一年におけるグループ全体の売上高は六〇億ドル（約四八〇億円）に上った。アメリカ・フォーブス誌の二〇一二年版長者番付によると、ゴータム・アダニーは全世界で第一八九位、インド人としては第一位の資産を持つ大富豪である。

ゴータム・アダニーは一九六二年、グジャラート州アーメダバード市の織物商人の家に生まれた。十代で単身商業都市ムンバイに移り、イヤモンドビジネスに数年従事したのち、一九八〇年代初頭にアーメダバードで貿易会社のアダニ・エクスポート（二〇〇六年にアダニ・エンタープライズに名称変更）を立ち上げた。一九八八〜八九年

図3 インドの石炭輸入量



ラという漁村に大規模な港と経済

は年商一四億ルピー(約三四億円)に達している(参考文献⑨)。アダニ・エクスポートは、グジャラート州の辺鄙な地方港湾を通じてプラスチック原料等を輸入することで業績を伸ばした(参考文献⑧)。一九九〇年代半ばのインドではプラスチック原料の輸入関税が高く設定されていたが、税関の監視が甘い地方港湾を使えば輸入貨物の価額を容易に過少申告することができたのである^②。一九九九年にはゴータムの弟であるラジエシュ・アダニが石炭輸入に絡む関税逃れの疑いで逮捕されている(参考文献⑤)^③。

度には年商二二〇〇万ルピー(当時の為替レートで約二億円)に過ぎなかつた同社は、二〇〇四年度には

貿易活動で稼いだゴータム・アダニは、一九九〇年代後半に港湾ビジネスに参入した。インド亜大陸西端のカッチ湾に面するムンド

特区(SEZ)用の施設を建設したのである。同港を運営するムンドラ・ポート・アンド・スペシャルエコノミックゾーン(二〇一二年にアダニ・ポート・アンド・スペシャルエコノミックゾーンに名称変更)は、二〇〇八年にスズキ自動車の大規模輸出ターミナルを誘致して話題を呼んだ。二〇一〇年には世界最大級の石炭専用ターミナルを稼働させている。

アダニ・グループはインド国内の他の港でも石炭専用ターミナルを建設し、二〇一一年にはオーストラリア北東部の石炭ターミナルを買収した。更に二〇〇八年から二〇一一年にかけてインドネシアとオーストラリアで炭鉱を獲得している。これらの投資が実り、アダニ・グループはインドの一般炭輸入マーケットで大きなシェアを握るに至った。

ワールをはじめとした大企業が先行しているが、それらの多くは政府から国産石炭を安く割り当てられる代わりに、電力を低い単価で州政府の配電公社に供給する義務を負っている。先述したように石炭の国内生産は現在停滞しているため、これらの発電所の一部は稼働率を下げざるを得ない状況に陥っている。

● 次の狙いは発電事業

ゴータム・アダニが次に狙うのは発電事業である。グループ企業のアダニ・パワーはムンドラに四六二〇メガワットの石炭火力発電所を建設中であり、その一部は二〇〇九年に稼働を始めている。マハラシュトラ州南部のティロダにも三三〇〇メガワットの発電所を建設中である。

アダニ・パワーのムンドラ発電所は主に輸入石炭を使っているため発電コストは比較的高いが、電力の供給条件について政府の束縛を受けることはない。その発電量の多くはインドエネルギー取引所(Indian Energy Exchange)などのスポット市場で売られているため、単位あたりの収入は高い(参考文献⑩)。

民間発電ビジネスではタタ・パ

インド国内の石炭生産が停滞を続ければ、アダニ・グループは石炭輸入で儲かるばかりでなく、発電市場でもシェアを伸ばすことになると考えられる。エネルギー問題はインドの経済成長を制約する最大の要因のひとつだが、ゴータム・アダニにはむしろチャンスを提供しているようである。

《参考文献》
① Adani Group [2012] Adani Group Corporate Brochure, (http://www.adani.com/pdfs/adani_corporate_brochure_lr.pdf).
② Central Statistics Office [2012] Energy Statistics 2012.
③ Comptroller and Auditor General of India [2012] Draft Performance Audit: Allocation of Coal Blocks and Augmentation of Coal Production by Coal India Limited.
④ The Hindu [2012] "Adani Inks Coal Supply Deal with NTPC" March 5.
⑤ Indian Express [1999] "Adani Exports Chief Gets Bail in Customs Duty Evasion Case" February 24.
⑥ Indian Express [2010] "Rajesh Adani Held for Fraud, Gets Bail" February 28.
⑦ Mjunction [2012] India Coal Market Watch, Vol. 4, No. 5.
⑧ Modi, Ketan [1998] "How Adani Group Used Ports to Its Advantage" Financial Express, April 28.
⑨ Ray, Joydeep [2004] "Adani: From Ports to Supermarkets" Rediff Business, June 26.
⑩ Sree Ram, R. [2011] "High Spot Prices a Reprieve for Merchant Power Producers" Mint, December 4.
⑪ World Coal Association [2011] Coal Statistics, (http://www.worldcoal.org/resources/coal-statistics/).

① 〇一一年度における一般炭輸入量は四九四三万トンであった(図3)。しかし民間調査会社のエムジャンクションによると七五五〇万トンが輸入されている(参考文献⑦)。
② アダニ・エクスポートは輸出貨物の価額を過大申告することで、輸出企業向けの輸入関税減免制度を悪用したとも報じられている(参考文献⑤)。
③ ラジエシュ・アダニは二〇一〇年にも関税逃れの疑いで逮捕されている(参考文献⑤)。

《注》
(1) 政府統計によるとインドの二〇一〇

《注》
(1) 政府統計によるとインドの二〇一〇